

第112回 病態生化学セミナー

日時：平成29年4月19日（水曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：間葉系幹細胞マーカーの研究にもとづくがん間質と線維化のバイオロジー

Stromal biology predicated on the study of marker proteins for mesenchymal stem cells

演者：榎本 篤 先生

名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学 准教授

膵がんなどの難治がんの治療が難しい理由の一つに、顕著な間質（stroma）の増生が挙げられている。この様ながんの間質は線維芽細胞（癌関連線維芽細胞）の増生と細胞外基質の産生によって硬くなることが特徴であり、この硬さががんのさらなる悪性化に結びつくことが知られている。一方、心不全、腎不全、肝硬変などの線維化疾患の本態も間質の線維化とそれにもとづく組織機能の低下であり、難治癌と線維化疾患には共通の病態が存在している。線維芽細胞の origin の一つは骨髄や全身の血管近傍に存在する間葉系幹細胞である。現在私達は、間葉系幹細胞のマーカーの一つである Meflin (Sci Rep, 6:22288, 2016) に着目し、難治がんおよび線維化疾患の間質線維化メカニズムを解明しようと努力しており、本セミナーではそのデータをご紹介しますとともに今後の研究の方向性について討論させて頂きたい。

【榎本 篤】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp